日赤番号	識別番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	甲原系	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用 血液 製新 等	備考	使用単位数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者 製剤使用※	感染症帰	転帰	供発のの者検原体、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 09 00 4	_A	/10/	/10/	人赤血球濃厚 液(放射線照 射) -LR	女 0	消化系	B型肝炎	09/0	ļ-	HBsAg(+) (09/09) HBV-DNA(+) HBcAb(+) (09/09)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (09/10)	陽性(輸血後)	保管検 体5本 につい てHBV- DNA(-)			5単位		5本の原料血漿を製 造。	原料血漿はす べて使用済 み。	非重篤	未回復		
3- 09 00 2	0	2009 /11/ 20		新鲜凍結人血 漿-LR 大皮放射 大心が射 が見い 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水	男 70	循器患	B型肝炎	09/0 2		HBsAg(-) HBsAb(-) (09/02) HBsAg(-) (09/08) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(-) HBeAb(-) HBeAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (09/11)	調査中			保管検本 につい てHBV- NAT実 応予定			38単位 50単位 13単位 26単位	体のみ陽 性であり、当該 献血時は	20本の原料血漿、3 本の新鮮凍結血漿- LR、22本の赤血球 濃厚液-LRを製造。 原料血漿は、2本確 保済みで、18本使用 済み。	新鮮凍結血漿 -LRはすべて 医療機関へ供 給済み。	重篤	死亡		

日赤番号	識別	FAX 受付 日	報告領日	一般名	患者性別	東原 疾	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用液 利 等	備考	使用单位数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者 製剤使用※	感染症帰	転帰	供 発 選 の 場 は 保 体 (抗 体 、 、 (N A A A A A A A A A A A A A A A A A A	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
				輸血によるHC	V 感 :	染報告	例(疑い	別を含む。)															
供』	1 者障	性事例	 列		$\dagger \dagger$		T																	
(該	当例	なし)			╁	 	H	ļ									1							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	-	<u> </u>	!		Ħ	===	Ŧ	=						<u> </u>			-				ļ			
陽車	事例	<u> </u>			Ш	L								ļ			ļ			ļ				
3- 090 003 9	A- 0900 0037	2009 /5/2 5	2009	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR 人赤血球濃厚 液-LR	男 6	消器患血疾	C型肝炎	08/0		HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (09/05)	-	HCV-RNA(-) (08/06) HCV-RNA(+) (09/05)	陽性(輸血後)	保管検 体7本 全部 HCV- RNA(-)	人清ア ルブン		12単位 2単位	5/7(HCV 関連検査 陰性)	5本の原料血漿、2 本の新鮮凍結血漿- LRを製造。	原料血漿は全 で無済を で大解凍を で大解します。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	重篤	未回復		
3- 090 004 1	A- 0900 0039	2009 /6/8	2009 /6/2 2	人赤血球濃厚 液-LR	男80	外傷整外的患	C型肝炎	09/0 1	HCV-Ab(-) (09/01) HCVコアAg (-) (09/01)		HCV-RNA(-) (09/01)	HCV-RNA(+) HCV-Аь(+) (09/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検 体1本 につい てHCV- RNA(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造、原料血漿は確保 済み。	_	重篤	未回復		
3- 090 004 2	A- 0900 0040	2009 /6/8	2009 /6/2 2	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女70	生殖器腹瘍	C型肝炎	09/0 2	HCVコアAg (一)	HCV-Ab(-) (09/02) HCVコアAg(+) (09/05) HCVコアAg(+) (09/06)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(-) (09/06)	陽性(輸血後)	保管検 体2本 全部 HCV- RNA(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿を製 造、原料血漿は全て 確保済み。	-	非重篇	未回復		
3- 090 005	A- 0900 0049	2009 /6/2 9	2009 /7/9	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女 ⁷ 0	脳疾患	C型肝炎	08/0 1	HCV-Ab(-) (07/12)		HCV-RNA(-) (08/01)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/07)	陰性(輪血前) 陽性(輪血後)	保管検 体2本 全部 HCV- RNA(-)			4単位	関連検査	1本の原料血漿、1本 の新鮮凍結血漿-LR を製造。	原料血漿は使用済み。新鮮 凍結無療機関へ は医療機関へ 供給済み。	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	年原務	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後接查(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併 加 製 等	備考	使用位数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者製剤使用※	感染 症等 転帰	転帰	供発のの者検原体 血遡場供保体 抗 NAT)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 09(00) 4		/7/1	2009 /7/2 7	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	男	頭部瘍糖病腎泌器疾量腫尿、尿系患	C型肝炎	07/0 6	HCV-Ab(-) (07/05)	HCV-Ab(+) (09/02) HCV-RNA(+) genotype 2B (09/04) HCV-Ab(+) (09/05)	-	-	-	保管検 体2本 全部 HCV- RNA(-)			4単位	1/2(HCV 関連検査 陰性)	2本の原料血漿を製 造。	原料血漿は使 用済み。	重篤	未回復		
3- 090 007 6	A- 0900 0976	/10/	2009 /10/ 30	新鮮凍結人血 新生 大子 大赤血球 漢厚 液(放射線照 射)-LR	女 6	脳腫	C型肝炎	09/0 9 09/0 9	HCV-Ab(-) (09/09)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	HCV-RNA(-) (09/09)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	陰性(輪血前) 陽性(輪血後)	保管検 体12本 全部 HCV- RNA(-)	人清ルンボヒールル		8単位 16単位	2/12(HC V関連検 査陰性)	2本の原料血漿、6本 の新鮮凍結血漿・ LR、4本の赤血球膜 厚液-LRを製造。原 料血漿は、全で確保 済み。新鮮凍結血漿 -LRは全で確保済 み。	療機関へ供給	重篤	未回復		
3- 090 007 7	//	2009 /10/ 20	2009 /10/ 30	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女60	外傷整外的患	H	09/0 8	HCV-Ab(-) (09/08)	HCV-Ab(+) (09/10) HCVコアAg(+) (09/10) HCV-RNA(+) HCV genotype 1b (09/10)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/10)	陽性(輸血後)	保管検 体3本 全部 HCV- RNA(-)			6単位		3本の原料血漿を製 造。原料血漿は、す べて確保済み。	-	重篤	軽快		
3 090 008 6	ገበበበበበ	/11/	/11/	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女 60	そ他疾	C型肝炎	09/0 3	HCV-Ab(-) (09/01) HCVコアAg (ー)			HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検 体3本 全部に ついて HCV- RNA(-)			4単位	0/3	2本の原料血漿、1 本の新鮮凍結血漿- LRを製造。原料血漿 は、1本確保済み。	であり回収済	重篤	軽快		

日赤番号	裁別 番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	東原新	医	投与	· 投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後 検査	受 血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用液 刺 等	備考	使用	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者 製剤使用※	感染症帰	転帰	供発のの者検原体NAT 血遡場供保体、、T)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
輸血	後N/	АТСВ	性又に	は輸血前後で降	易性		1	ļ																
1090		/10/	/11/ 6	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR 人赤血球濃厚 液-LR	女 ⁷ 0	消化器瘍	C型肝炎	09/0 9- 09/1 0 09/0	(09/08)	HCVコアAg(-) HCV-Ab(+) (09/10)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/09)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検 体3本 につい てHCV- RNA(-)			4単位 2単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	_	非重篤	不明		
1090		2009 /11/ 5	/11/	人血小板濃厚 液(放射線照 射)	男 5	血疾病	C 型肝炎	09/0 2 09/0 8	HCV-Ab(-) (08/12)	HCV-Ab(-) (09/04) HCV-Ab(-) (09/08) HCV-Ab(+) (09/10) HCV-Ab(+) (09/10) HCV-RNA(+) (09/10)	HCV-RNA(+) (09/02)	HCV-RNA(+) (09/04)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検 体5本 全部 HCV- RNA(-)			50単位	関連検査	5本の原料血漿を製 造。原料血漿は1本 確保済み。	原料血漿は4 本使用済み。	非重篇	未回復		
3- 090 008 7		2009 /11/ 11		人赤血球療障 液(放射報照 射)-LR	女 0	情况 器器 患	C型肝炎	09/0	HCVITAg (-) HCV-Ab(-) (09/04)	HCV=FAg(+) HCV-Ab(-) (09/10)	HGV-RNA(-) (09/04)	HCV-RNA() HCV-Ab() (09/10)	急性(幹血部) 鶏性(輸血法)	域を原体3本 につい てHOV- RNA(-)			6里位	0/3	1本の原料血管、2年 の影響度結血が上限 を製造。原料血管、 新鮮運結血母は、全 て確保済み。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	非重	轻快		
陽転	未確	認事例	il N																					
3- 090 009 0		2009 /11/ 19		人血小板濃厚 液(放射線照 射) 人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女 0	血液	C 型肝炎	09/0 ! 3- - 09/0 : 7	HCV-Ab(-) (08/12) HCV-FAg(-) (09/03)	HCVコアAg(+) (09/11)	調査中	調査中	HCV関連検査 実施予定	保管検 体22本 につい てHCV- NAT実 施予定			120単 位 20単位	12/22(HC V関連検 査陰性)	20本の原料血漿、2 本の新鮮凍結血漿- LRを製造。原料血漿 は、使用の有無結血漿- 査中。新鮮凍結血漿 -LRはすべて確保済 み。	調査中	重篤	調査中		
3- 090 009 1		2009 /11/ 20		新鮮凍結人血 频-LR 人血小板濃厚 液放射線照 射) 人赤血球濃厚 液-LR	男 60	循器是	C型肝炎	09/0	HCV-Ab(-) (09/02)	HCVコアAg(+) (09/08) HCV-RNA(+) genotype1b (09/10)	調査中	調査中	HCV関連検査 実施予定	保管検 体17本 につい てHCV~ NAT実 施予定			20単位	9/17(HC V関連検 査陰性)	9本の原料血漿 8 本の赤血球濃厚液- LRを製造。原料血漿 は、すべて確保済 み。	-LRは全て医	重篤	未回復		

日赤番号	識別番	FAX 受付 日	報告日日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	· 投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用 血製 等	備考	使用 単位 数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤 確保※	同一供血者 製剤使用※	感染 症帰	転帰	供発の の者 検原 の名 は保保 が抗 (NAT)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
	1_			輸血によるH	IV便	染	报告	例(集	走い仔	を含む。)					ļ										
(1	5当例	なし)	-		L	П		1_		ļ															
				輸血による細	菌等	序感	染報	告例	(疑)	ハ例を含む。)									<u> </u>						
3- 09(00) 6	A- 0 090 3 003	2009 0 /5/2 4 0	2009	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	女	9	脳疾患	細菌感染	09/0 4	_	輸血終了翌日 財血症性ショック発 現免熱に血圧変動 16日後、臓器不全、DI CIC工死亡 院内にて養養の患 Serratia marcescens 同定	本)にてSerratia marcescensに対 する細菌培養試 験を実施、陰性。 当該製剤3本の 内1本でエンドト キシン濃度	_	_	_		被疑手とは、 を受ける。 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、	6単位	_	1本の原料血漿、2 本の新鮮凍結血漿- LRを製造。原料血漿 は確保済み。新鮮凍 は強血漿-LRは全て確 保済み。		重篤	死 患の7血多不口死剖し死本因係(1の見) 古 者年1、症臓全に亡検。亡剤果な担意)。は月敗、器、て。な との関し医		
3- 090 004 6	A- 0900 1 004	0 /6/1	2009 /6/2 6	人血小板濃厚 液HLA(放射線 照射)	女	60	血液疾患	細菌感染	09/0 6	<u>-</u>	36.7°C→37.6°C→ 38°C 翌日一旦体温が低 下(358°C)したが夕 方88°C 患者の血液培養に よりグラム陽性球菌 を検出し、その後 MRSAと同定。	同血無施非関抗抗血操症を含む、同血無施非関抗抗血性を分配を発生を変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更が変更がある。 「一、質な、関抗抗血療性を対し、関抗性、質な、関係を対し、 「一、質な、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	_	-	_			20単位	_	1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。	-	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾	感染症名	投与	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用 血剤 等	備考	使用 単位 数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤確保※	同一供血者 製剤使用※	感染等転帰	転帰	供発 発 場 場 は は は は は は は は は は は は は	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 090 005 8	A- 0900 0057	2009 /8/6	2009 /8/1 7	人血小板濃厚 液(放射線照 射)	男 3	血液瘍	細菌感染	09/0 8	_	BT37.2℃→39℃ PR 85/min→ 107/min 院内にて患者血液 培養は陰性	投列を表する。 投列を表する。 を表する。	<u>.</u>		_			10単位		1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。	_	非重	回復		
3- 090 005 3	A- 0900 0051	2009 /7/7	2009 /7/1 6	人血小板濃厚 液(放射線照 射)	男 0	血液瘍	細菌感染	09/0 7		輸血終了30分後に 39.6℃の発熱、咽頭 痛あり。 患者血液培養から レンサ球頭(+)検 出、その後 Streptococcus oralisと同定。	同血無施・非関抗抗血 理・本)をを 理・本)をを ・理・本)をを ・調・流・血 ・調・流・血 ・調・流・血 ・変・は ・変・なりを ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、	-	-			被疑薬:採血 2日目の照射 濃厚血小板(1 本)	10単位	-	1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX 受付 日	報告日	i –	般名	患者性別	年原:	英 新 4	投车	与 投与前検査 月 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後後査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用液剤 等	備考	使用单位数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症帰	転帰	供発のの者検原体入 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 090 005 5	A- 0900 0054	2009 1/7/2 7	2009) 液(血小板濃厚 (放射線照	男 60	血腫	发 等	田 写文 E	0	pg/mL 患者血液培養より Serratia marcescens を同定	マルマン・リー は1.0pg/mL以下) は1.0pg/mL以下) 保管後体にて Serratia marcescensに対す る細菌培養試験を 実施 姓性					悪にれr 様子定た たた を を で を で を で を で を で を で の で で の で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の	10単位		1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。		重 綀	经快		
3- 090 006 5	A- 0900 0065	2009 /9/8	2009 /9/1 8	人(液(射)	血小板濃厚 放射線照	男 1	血液疾		09/ 7- 09/ 8	0 -	IgM-CMV-Ab(+) IgG-CMV-Ab(+) (09/08)	-	-	調査なし	保管検体2本 全部 IgM- CMV- Ab(-) IgG- CMV-A b(+)	乾スホ人疫ロン 燥ル化免グリ	投与は10単位 製剤中ずつ、 35mL使用	20単位	_	2本の原料血漿を製 造。原料血漿は全て 確保済み	-	軽微	未回復		
3- 090 006 6	A- 0900 0066	2009 /9/9	2009 /9/1 8	液	血小板濃厚 未血球濃厚 LR	男 0	血腫	組建感	3 09/	0 -	BT38.9℃ 翌日、赤血球製剤 輸血約1時間後 BT39.0℃ 院内にて実施の患 者血液より Pseudomonas	女子中正のヨ獣	-	_	_		被疑棄:採血4 日日の後(本年) 小板(1本月) 小探血11日厚液 一上R(1本)	10単位	ľ	1本の原料血漿、1本 の新鮮凍結血漿、1本 の新鮮凍結血漿-LR を製造。原料血漿は 確保済み、新鮮凍結 血漿-LRは確保済 み。		非重	回復		

日赤番号	鎌別番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	用 原 <i>势</i>	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用液 刺 等	備考	使用単位数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤確保※	同一供血者 製剤使用※	感染 症帰	転帰	供発のの者検原体抗 のの者検原体抗 NAT)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 09 000 7	A- 0900 0067	2009/9/1	2009/9/2	人赤血球濃厚 液放射線照 射)-LR	女 0	種病そ他疾	和菌感:	09/0		嫌レベル低下、	血衆ダンハク異火 損検査:欠損なし					被疑薬:探血 10日目の照射 赤血球濃厚液 -LR(2本)	4単位		2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み		重篤	死 患の9日に一次ではとう(の解の)の日に一次では、一次では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般		
3 090 000 8		/9/1	/9/2	人赤血球濃厚 液放射線照 射)-LR	男 0	消光表	細菌感染	09/0 9	-	輸血後、悪寒と発熱 あり、院内にて実施 の患者血液より Staphylococcus aureusを同定した。	当該製剤のセグ メントチューブ(2 本)にて細菌培養 試験を実施、降 性。	-	-	-		被疑薬:採血目の照射示LR(2本調では、10円、11赤LR(2本調でをは、10元の照射が一位では、10元の照射では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10元の原列では、10円の原列	4単位	_	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て 確保済み。	-	重篤	軽快		
3-090		/9/2	/10/	人赤血球濃厚 液(放射線照 射) -LR	女70	腎泌器疾	伝染性紅斑赤芽球癆	09/0 3	-	IgM-B19 -Ab(+) (09/05)	-	B19—DNA(-) IgM-B19Ab(-) IgG-B19 Ab(+) (09/09)	陰性(輸血後)	保管検 体1本: B19— DNA(+) IgM- B19Ab(-) IgG- B19 Ab(+) 保管検 体1本: B19— DNA(-)			4単位	-	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR の新鮮凍結血漿-LR を製造。原料血漿は 確保済み。新鮮凍結 血漿-LRは確保済 み。	原料血漿使用 の有無を調査 中。	重篤	未回復		患者検体とB1 9DNA陽性保 管験体の塩基 配列のては、輸 については、輸 19DNA調査で うため調査で きず。

日赤番号	識別番号	FAX 受付 日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	疾其名	安 投车	子 投与前検査 引 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査		受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併 加 製 等	備考	使用单位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染等転帰	転帰	供発のの者検原体入 血遡場供保体(抗 NAT)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
3- 09 00 1	0 7 0900 7 007	2009 0 /9/2 1 4	2009 /10/ 2	人赤血球濃厚 液(放射線照 射)-LR	y	消器瘍	化重	田首志: 27	BT36.8°C BP108/56 P72	輸血30分後 BT37.5℃ BP106/28 P184、悪寒あり・全 身倦怠感出現、輸 血中止 2.5時間後 BT40℃ BP152/26 P80 院内にて実施の患 者血液培養より Enterobacter cloacaeを同定	投与中止の当該特別は本で細菌に、の当該性を実施性。性別を主要をは、主要をは、主要を対象を表する。	-				被疑薬:採血 11日目の照射 赤血球濃厚液 -LR(1本)	2単位		1本の新鮮凍結血漿 -LRを製造。新鮮凍 結血漿-LRは確保済 み。	-	非重	回復		
3- 096 000 2	A- 0900 7 0072	2009 /10/ 6	/10/	人血小板濃厚 液(放射線照 射)	男 (C	血疾	夜县	H 09/		約2時間後BT36.8℃ →39.7℃ 院内にて実施の患 者血液培養より Streptococcus	投与中止の当該 製剤1本で細菌 培養試験を実 Streptococcus agalactiae (B群レ ンサ球菌) 同定。		_			被疑業:採血3 日目の照射濃 厚血小板(1 本)	10単位		1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。	-	重篤	未回復		医療検の で後株出よ社らに解相確 を検出 ある。医当は、大力・ を検出を表する。 を検出を表する。 を受験さまれる。 を受験される。 を受験される。 を受験される。 を受験でする。 を使うできる。 を使うでををををををををををををををををををををををををををををををををををを
3- 090 007 3	A- 0900 0073	2009 /10/ 7	2009 /10/ 20	人赤血球濃厚 液放射線照 射)-LR	男 0	そ他疾患	和蘭感染	09/		輸血1時間半後 BT38.0℃ 2時間半後 BT39.0℃ 院内にて患者血液 培養実施。 陰性	投製計画	-	-	-		被13市一調け、 接到日本。 東日東、 東日東、 東日東、 東日東、 東田、 東田、 東田、 東田、 東田、 東田、 東田、 東	2単位	- 1	1本の原料血漿を製 造。原料血漿は確保 済み。	-	非重	軽快		

371	3	別号	AX E付	報告受領日	一般名		患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前 検査	日赤投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者 個別 NAT	併用 血液 製剤 等	備考	使用 単位 数	供血者 再献血 ※	同一供血者製剤確保※	同一供血者 製剤使用※	感染 症帰	転帰	供発のの者検原体 のの者検原体 が 、、、、 NAT)	供血者発遡 及の場合の 供血者の検 査値
	90 A- 90 09 07 00	- 21 00 / 179 2	009 10/ 1	2009 /11/ 4	人赤血球 液-LR	夏 厚	女 7 0	腎泌器疾尿系患	細菌感染	09/1 0	-	輸血後25分で副作 用発現。悪寒、ふる え、倦怠感、端鸣 (Sp02 90%) さらに約2時間後 (BT36.4°C→39.3°C) 血圧低下(113/45→ 94/60) 院内にて実施の患 者血液培養より Escherichia coliを検 出した。	施、陰性。 非溶血性副作用 関連検査実施。 抗血漿タンパク質 抗体検査:陰性	-	_			被疑業:採血1 2日目の赤血 球濃厚液-LR (1本)	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿 -LRを製造、確保済 み。	_	重篤	軽快		
300	90	2//1	009 11/ 7		人血小板; 液	數厚	男 0	血液瘍	細菌感染	09/1 1		39.4℃ 脈153/min	投与中止の当該 製剤1本で細菌塔 養試験を実施予 定。 非溶血性副作用 関連検査実施予 定。	-	_	-		採血2日目 <i>の</i> 濃厚血小板	10単位		調査中	調査中	非重篇	調査中		

平成21年12月10日開催 薬事・食品衛生審議会 運営委員会提出資料

別紙

日本赤十字社

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について (輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内 調査期間:平成17年1月1日~平成21年9月30日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1~H18. 2*1	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3~H21. 9*2	961, 033	115	1/8, 357
合計	1, 302, 207	160	1/8, 139

^{*1} 北海道センターにてNAT実施(ALT高値、検査不合格検体も含む)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳 別添

^{*2} 血漿分画センターにてNAT実施(ALT高値、検査不合格検体は除く)

調査期間:2005年1月1日~2009年9月30日

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV	抗体	HEV	問診該当	突食歷調査		遡及対象	受血者情報
110.	, A M C	T 88 F	1.1.734	(IU/L)	IgM	lgG	RNA	<u>%</u> 1	肉の種類	食べ方	供給製剤	A
1	2005/01/04	32	М	57	_		+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	_	_	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	М	103	_	_	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	_	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	М	38		-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	_	_	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	_	_	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16		-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	М	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	М	44	_	_	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	М	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	м	52			+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	М	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	м	23	+	_	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	М	15	_	_	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	м	19	_	_	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	М	49	_	_	+	無	ウシ籍内 ヒツジ籍肉 ブタホルモン、ブタ籍肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	м	31	_	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	_	_	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	М	12		_	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21		_	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	М	47	+	+	+	有	ウシレパー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	М	30	_	_	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	_	_	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	_	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	_	_	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)		/抗体	HEV RNA	問診 該当	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG		※1	肉の種類	食べ方	ł	
31	2006/01/02	22	F	12			+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	М	23	-	_	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	М	42	_	_	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	м	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	М	43	-	_	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	М	25	_	_	+	無	回答なし		無	-
37	2006/01/25	52	м	25	-	_	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	м	32	_	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	М	13	_	_	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	м	28		_	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	М	22	_	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	М	30	-	_	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	_	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	_	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	М	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	_	_	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	_	_	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	_	_	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	М	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	М	26	_	_	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	М	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	М	19	_	_	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	М	27		_	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	м	33	_	- 1	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	_	_	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+		回答なし	†	無	
60	2006/07/22	49	М	46	+	_	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV	/抗体	HEV		喫食歴調査		遡及対象	受血者情報
		7.60	12277	(IU/L)	IgM	IgG	RNA	※ 1	肉の種類	食べ方	供給製剤	文皿有情報
61	2006/08/01	62	М	18			+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14			+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	М	15			+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	М	22	_	_	+		不明		無	
65	2006/11/19	48	М	58	_	_	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	М	18	-	_	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	М	55	_	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	М	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	М	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	М	41	_	_	+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	М	32	_	+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	М	30	_	_	+		不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	_	-	+		ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15		_	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+		ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	М	26	_	+	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	М	20		_	+		ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	М	37	+	+	+		ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	М	18	_	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	_	_	+		喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	М	48		_	+		不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	М	30	-	_	+		ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	М	33	_	-	+		ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	•
84	2007/08/04	53	М	28	_	_	+		ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	М	60	_	_	+		ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	М	29	_	-	+		喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	М	23	-	_	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	М	19	_	_	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	М	39	_	_	+		ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	М	40			+		喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT	HE\	∀抗体	HEV	問診 該当	喫食歴調査		遡及対象	受血者情報
_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			(IU/L)	IgM	lgG	RNA	<u>%</u> 1	肉の種類	食べ方	供給製剤	文皿名闸和
91	2007/10/09	35	M	19		_	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	М	31			+		ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	М	5		_	+		不明		無	
94	2007/11/16	54	М	22	_	+	+		ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	М	47		_	+		ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	Ħ	
96	2007/11/19	58	М	13		-	+		レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	М	46			+		不明		無	
98	2007/11/24	36	М	25	_	_	+		不明		無	
99	2007/11/29	42	М	21	_	+	+		不明		無	
100	2007/11/30	31	м	42	+	+	+		レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	М	36	_	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+	./	ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	М	22	_	-	+		ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	М	47	+	+	+		不明		#	
105	2008/02/06	57	М	20	_	- 1	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	М	35	_	-	+		不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+		不明		無	
108	2008/03/11	30	М	21	_	-	+		不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	_	- 1	+		喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	М	41	+	+	+		ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	707
111	2008/03/29	54	М	26	_	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	_	_	+		不明レバー	十分加熱	#	
113	2008/04/16	48	М	13		_	+		不明		無	
114	2008/05/12	33	М	12	_	-	+		ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	_	_	+		不明		無	T
116	2008/05/28	47	M	46	_	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	М	38	+	+	+		ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	М	11	_	_	+		ウシレバー ブタ精肉	生十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	М	17	_	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	#	
120	2008/07/10	39	м	32	_		+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV	抗体	HEV	問診 該当	喫食歴調査		遡及対象	受血者情報
			,	(IU/L)	- lgM	lgG	RNA	※ 1	肉の種類	食べ方	供給製剤	
121	2008/07/11	39	М	28		-	+		不明		無	
122	2008/07/26	34	м	35	_		+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	#	
123	2008/07/27	36	М	45		-	+		不明		無	
124	2008/07/30	24	М	10	_	-	+		不明		無	
125	2008/08/20	19	м	17	+	-	+		不明		無	
126	2008/09/03	30	М	28	_	_	+		不明		無	
127	2008/09/08	35	М	16	_	_	+		不明		無	
128	2008/09/09	23	F	24	_	_	+		ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+		不明		無	
130	2008/09/16	58	М	21	_	-	+		不明		無	
131	2008/09/17	62	М	37	_	_	+		ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無	
132	2008/09/23	42	М	36	_	_	+		ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
133	2008/09/25	35	М	16	_	_	+		不明		無	
134	2008/09/27	30	М	22	_	-	+		不明		無	
135	2008/10/10	50	М	31	_	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無	
136	2008/10/11	39	F	15	_	-	+		ウマ精肉	生	無	
137	2008/10/14	56	М	13	_	_	+		不明レバー	生	無	
138	2008/10/18	38	F	23	_	_	+		不明		無	
139	2008/11/03	37	М	22	_	_	+		ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無	
140	2008/11/11	41	F	11	_	-	+		不明		無	
141	2008/12/05	52	М	18	_	_	+		ブタレバー	十分加熱	無	
142	2008/12/20	47	М	22		_	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
143	2009/01/13	50	м	27	-	_	+		ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)	十分加熱	無	
144	2009/01/27	55	М	17	-	-	+		不明		無	
145	2009/02/11	37	М	28	_	-	+		不明ホルモン	十分加熱	無	
146	2009/02/16	59	F	23	_	-	+		ブタレバー	不明	無	
147	2009/02/23	20	F	42	_	+	+		ウシ、ブタ精肉	半生	無	
148	2009/03/11	29	М	49	_	-	+		ブタレバー、ホルモン	十分加熱	無	
149	2009/04/16	35	F	29	_	_	+		ウシレバー ウシ・ブタホルモン	生 半生	無	
150	2009/04/24	36	F	42	_	_	+		不明ホルモン	不明	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT	HEV抗体		HEV	問診 該当 ※1	喫食歴 調査		遡及対象	受血者情報
_				(IU/L)	lgM	IgG	RNA	RNA ×1	肉の種類	食べ方	供給製剤	人血日 (640)
151	2009/04/27	45	М	50		_	+		不明	不明	無	
152	2009/06/04	65	F	24		_	+		不明ホルモン	不明	無	
153	2009/06/09	63	м	26	_	_	+		ブタ肉 シカ 精 肉	十分加熱 生	無	
154	2009/07/01	47	М	40	+	+	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
155	2009/07/23	26	F	11	_	_	+		ブタホルモン ウシ精肉	十分加熱生	無	
56	2009/08/01	40	м	26	_	_	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
57	2009/08/14	41	м	14	_	-	+		不明		無	
58	2009/09/04	43	М	45	_	_	+		ウマ精肉	生	無	
159	2009/09/09	54	F	14	_		+		ウシレバー	半生	無	
60	2009/09/09	51	м	19		_	+		ブタ精肉	十分加熱	無	

※1:問診喫食歴調査内容 05年 1月1日~05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」 05年11月1日~06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡 平成21年11月13日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事·食品衛生審議会血液事業部会事務局 厚生 労働省 医薬食品 局血液 対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成21年7月3日付け血安第271号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成21年12月10日(木)に平成21年度第3回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成21年11月20日(金)までに当事務局あて御提出いただきますようお願いします。記の11については、平成21年7月28日開催平成21年度第2回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

- 1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝 炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検 査結果。来訪がなければ、その旨。
- 3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型 肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る7人の供血者のその後の 検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検

査結果。来訪がなければ、その旨。

- 5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 10. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液 製剤でHCV(C型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る3人 の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
- 11. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血 安 第 4 5 2 号 平成21年11月20日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社 血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について(回答)

平成21年11月13日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記のとおり資料を作成しましたので報告いたします。

記

- 1. 平成 15 年 9 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る 2 人のその後の来訪なし。(8 名中 6 名が来所、検査は全て陰性)
- 2. 平成 16 年 3 月 22 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る 5 人のその後の来訪なし。(37 名中 32 名が来所、検査は全て陰性)
- 3. 平成 16 年 11 月 26 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る7人のその後の来訪なし。 (48 名中 41 名が来所、検査は全て陰性)
- 4. 平成 17 年 1 月 12 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る 4 人のその後の来訪なし。(16 名中 12 名が来所、検査は全て陰性)
- 5. 平成 17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る1人のその後の来訪なし。(追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc 抗体がEIA法のみ陽性HI 法陰性、その他の者は全て陰性)

- 6. 平成 17 年 6 月 23 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV (B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 4 人のその後の来訪なし。(20 名中 16 名が来所、検査は全て陰性)
- 7. 平成 18 年 4 月 7 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV (B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 9 人のその後の来訪なし。(53 名中 44 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性)
- 8. 平成 18 年 6 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV (B型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。(29 名中 28 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性)
- 9. 平成 19 年 2 月 20 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV(B型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。(3 名中 2 名が来所、検査は全て陰性)
- 10. 平成 18 年 2 月 15 日報告、3 月 8 日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV(C型肝炎ウイルス)感染が疑われる事例について、残る 3 人のその後の来訪なし。(81 名中 78 名が来所、検査は全て陰性)
- 11. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況については別紙のとおり。

